



奈良県中央卸売市場 オーガニック流通推進協議会

令和**3**年度の取組について

伊賀ベジタブルファーム(株) 村山邦彦



奈良オーガニック／取組の背景

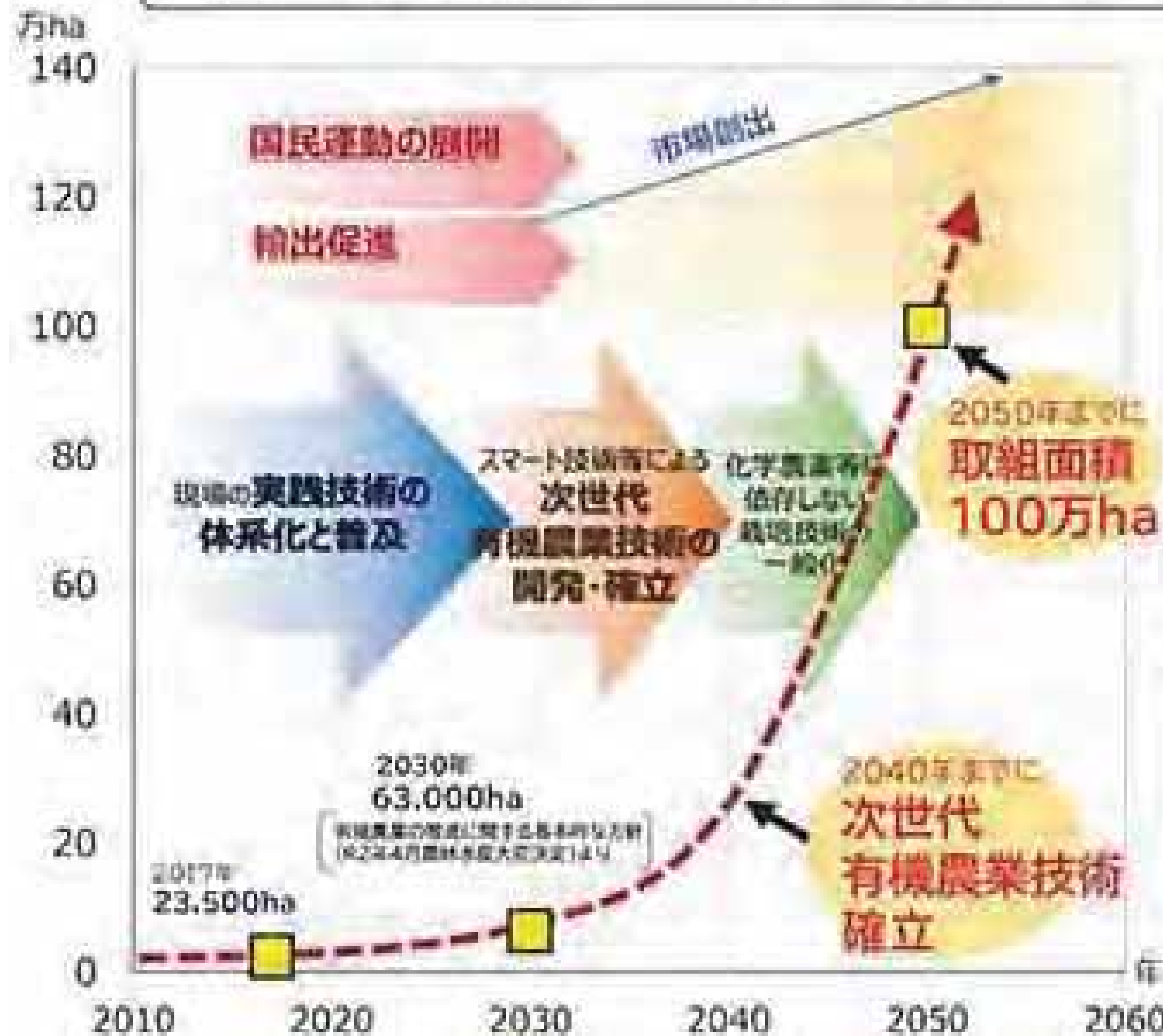
- みどりの食料戦略システム⇒有機農産物をどう軌道に乗せる？
オーガニック流通 ⇒ 安定供給体制に課題（生産技術・流通手法）
- 市場法改正⇒市場のサバイバル
奈良県中央卸売市場の再整備計画（R9年開業を目指す）
- 産地／地方経済の疲弊～構造転換の必要性／DX導入
地域経済活性化の起爆剤として・・・

みどりの食料戦略システム

有機農業の取組の拡大

目標

- ・2050年までに、オーガニック市場を拡大しつつ、耕地面積に占める有機農業の取組面積を**25%（100万ha）にまで拡大**（※国際的に行われている有機農業であって認証を受けていないものを含む）
- ・2040年までに、主要な品目について農業者の多くが取り組むことができる**次世代有機農業技術**を確立



目標達成に向けた技術開発

実践技術の体系化・省力技術等の開発（～2030年）

- ・堆肥のペレット化、除草ロボット等による耕種的防除の省力化
- ・地力維持・土壌天敵等を考慮した輪作体系
- ・省力的かつ環境負荷の低い病害の飼育管理

→ 有機農業に取り組む農業者の底上げ・視野の拡大

次世代有機農業技術の確立（～2040年）

- ・AIによる病害虫発生予測や、光・日等の物理的手法、天敵等の生物学的手法
- ・土壌微生物機能の解明と活用技術
- ・病害虫抵抗性を強化するなど有機栽培に適した品種

→ 農業者の多くが取り組むことができる技術体系確立

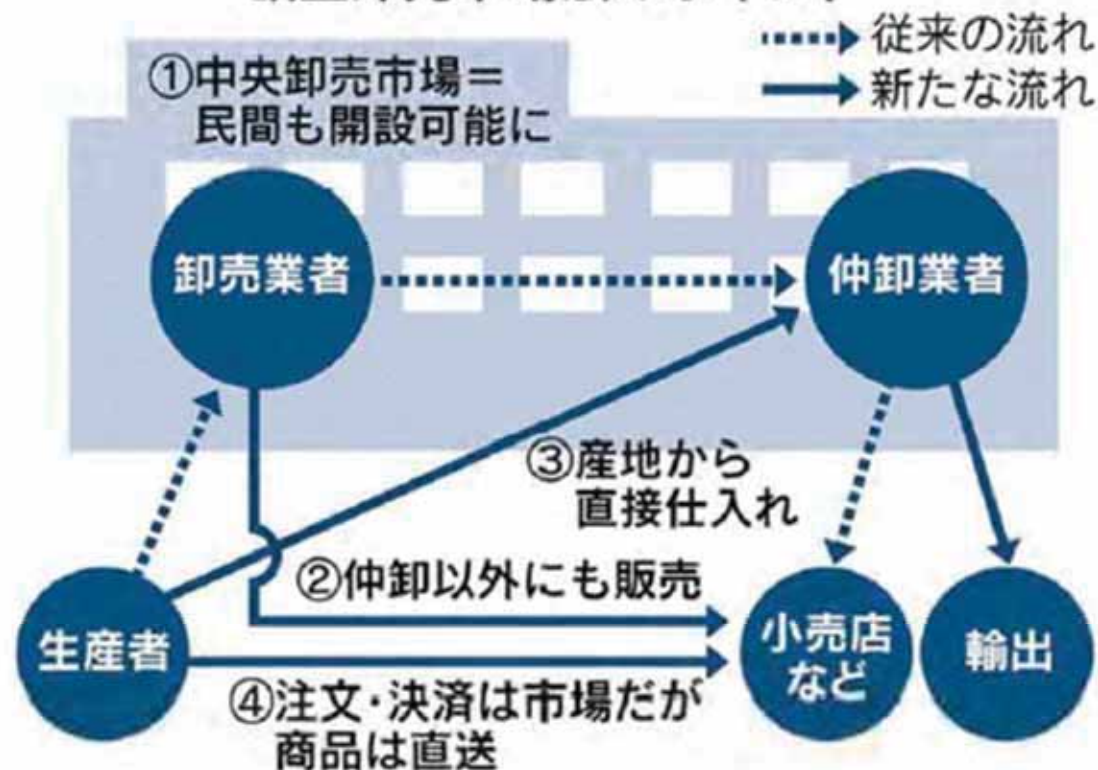
目標達成に向けた環境・体制整備

農業者の多くが有機農業に取り組みやすい環境整備

- ・現場の優良な実践技術の実証等により、有機農業への転換を促進
【持続可能な生産技術への転換を促す仕組みや支援を検討】
- ・有機農業にまわって取り組む産地づくり、共同物流等による流通コストの低減
- ・輸入の多い有機大豆等の国産への切替えや、有機加工品等の新たな需要の開拓、輸出を急務にした茶などの有機栽培への転換
- ・消費者や地域住民が有機農業を理解し支える環境づくり

出典：
農業協同組合新聞
(2021年3月)

改正卸売市場法のポイント



- ①市場開設者の規制緩和 ③「直荷引きの禁止」の廃止
②「第三者販売の禁止」の廃止 ④「商物一致原則」の廃止

出典：
日本経済新聞
(2020年6月)

奈良市場の有機農産物流通への取り組み

奈良県中央卸売市場再整備の基本方針

- 市場機能の効率化・高機能化を図る市場エリアとともに、市場の機能や立地を活かした「食とともに文化・スポーツを楽しむ」華やかで賑わいのある複合拠点を一体的に整備
- 魅力ある「市場ブランド」の創出により、市場で取り扱う生鮮食料品の付加価値を向上し、他市場との差別化や市場としての競争力を強化

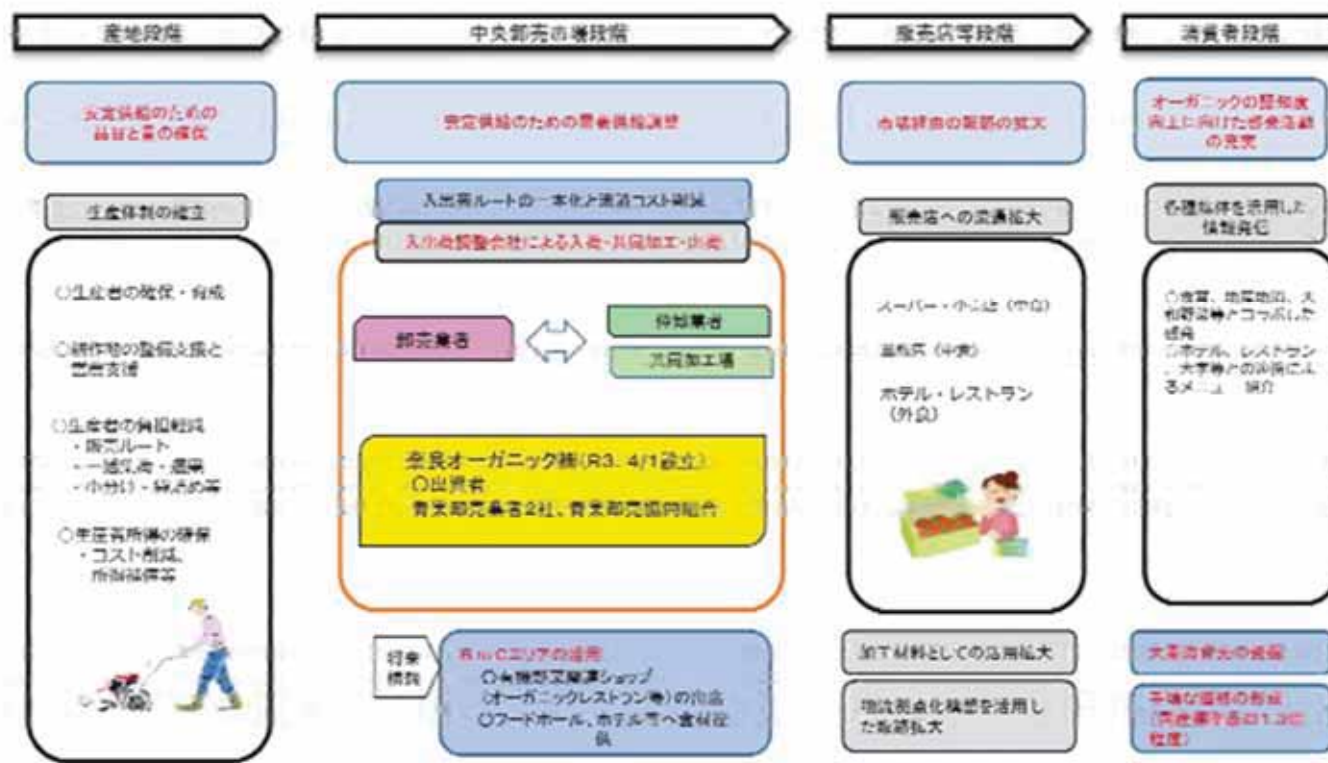


・ 再整備イメージ図

【目標】奈良県中央卸売市場の新たな役割

- ①オーガニック野菜（加工品を含む）の流通促進
- ②大和野菜の流通促進

奈良市場の有機農産物流通構想



【オーガニックビジネス実践拠点づくり事業】の活用

<目指すもの>

奈良市場を活用したオーガニック&ローカル農産物流通の新たな仕組づくり

<関係者・構成メンバー>

市場関係者

奈良市場、市場協会、奈良オーガニック(株)、奈良県 ほか

周辺有機農業者・グループ

かみむら農園、曾爾村農林業公社、手づくり農園、伊賀有機農業推進協議会、御浜天地農場他

実需者

坂ノ途中、へんこ、かんとりい、五ふしの草 他

事業検討委員

小野邦彦（坂ノ途中）、折笠俊輔（流通経済研究所）

榊原一憲（五ふしの草）

ファシリテーション

伊賀ベジタブルファーム 村山邦彦

これからのオーガニック&ローカル農産物の流通イメージ



【オーガニック荷受】 デジタル化技術によるイノベーション

★多様なラインアップを安定的に入荷できる体制づくり

- ・オーガニック&ローカル（大和野菜など）の仕入をオール市場体制で取りまとめ
 - 奈良周辺の生産者からの仕入体制づくり／集荷ロジスティック構築
 - 全国各地の有力産地からの仕入ルート開拓／市場便利用で物流費を削減
- ・オンラインからの商品登録・注文／データ集約～農産物の情報をリアルタイム把握
- ・産地と実需者の間の栽培契約を仲介・斡旋
- ・有機JAS対応小分センターの設置（認証取得予定）

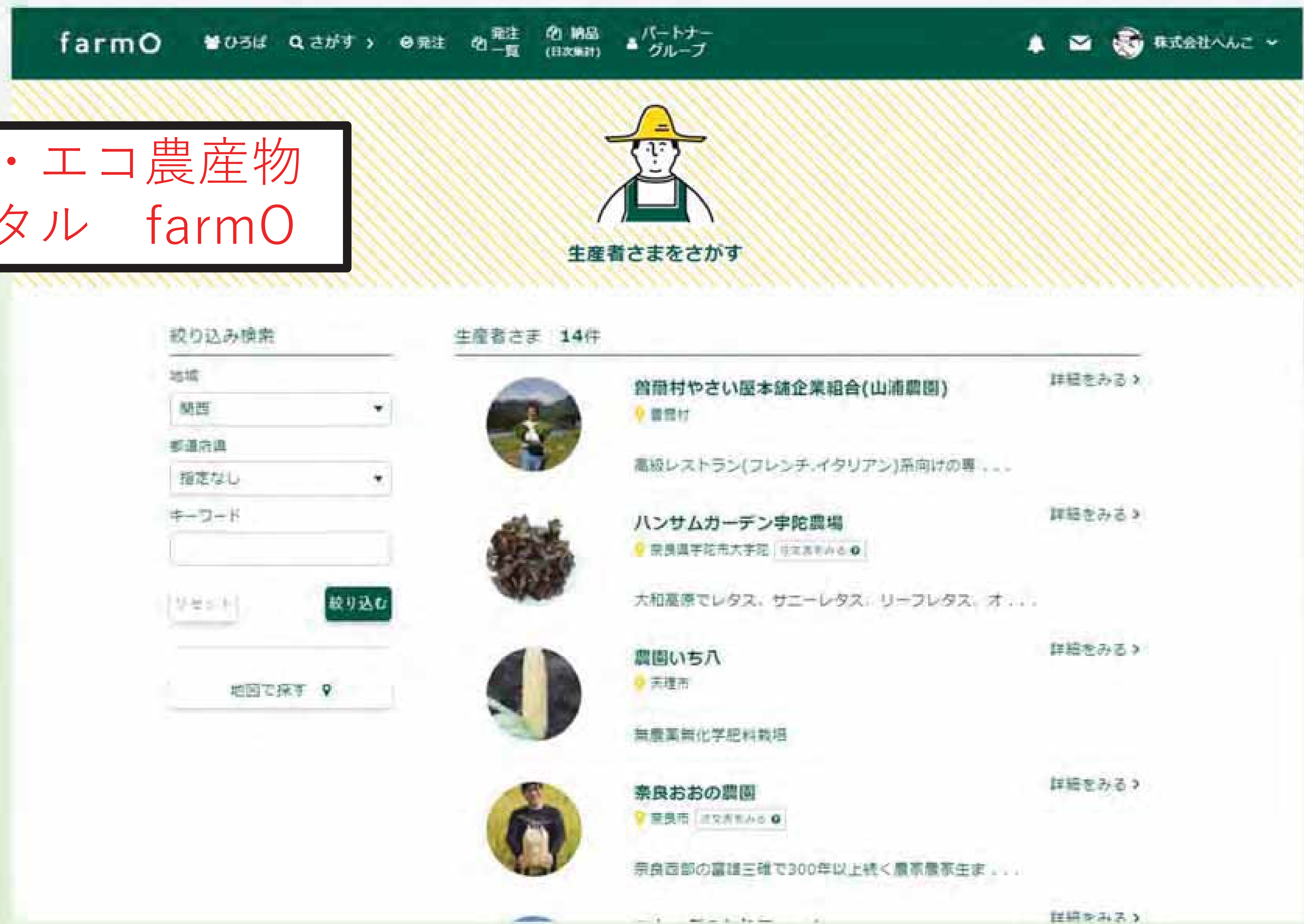


【ラストワンマイル配送】 市場の配送ネットワークを最大限活用

★市場だからこそ、きめ細かな物流サービスを提供

- ・市場のネットワークを生かして奈良県および周辺地域へのきめ細かな配送を実現
- ・通常購入している野菜と一緒にお届けが可能
- ・地域のオーガニック事業者と情報共有を進めて物流連携

オーガニック・エコ農産物
流通情報ポータル farmO



注文表

野菜をさがして発注しましょう！

詳細を表示

< 前週へ

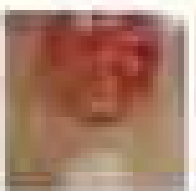
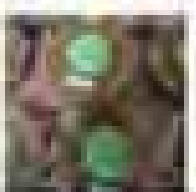
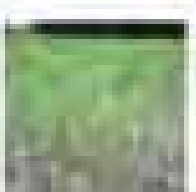
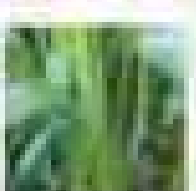
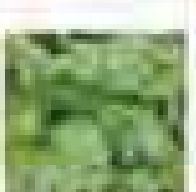
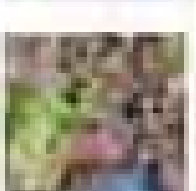
次週へ >

発注する

検索する文字を入力して

検索

クリア

	写真	商品名†	販売 単位	単価 (税抜)	生産者さま名	発注締切	備考	3/27 (日)	3/28 (月)	3/29 (火)	3/30 (水)	3/31 (木)
1		玄米 5kg 特別栽培	袋	1,800	コニチャン農園  	2日前22時						
2		大豆味噌 500g 農薬・化学肥料不使用	パック	500	コニチャン農園  	2日前22時						
3		ニンジン 400g 有機JAS 農薬・化学肥料不使用	袋	140	いけ田ファーム  	2日前22時						
4		ニンジン 1kg 有機JAS 農薬・化学肥料不使用	バラ	310	いけ田ファーム  	2日前22時						
5		みずな 180g 農薬・化学肥料不使用	袋	150	コニチャン農園  	2日前22時						
6		わさびな 150g 農薬・化学肥料不使用	袋	135	コニチャン農園  	2日前22時						
7		サニーレタス 300g 農薬・化学肥料不使用	箱	150	コニチャン農園  	2日前22時						
8		三太郎 500g 農薬・化学肥料不使用	袋	100	and farm  	1日前08時						
9		大豆味噌 500g 農薬・化学肥料不使用	パック	600	コニチャン農園  	2日前22時						

隠す→

物流 ①

発注締切:

出荷日2日前 22時

物流手段:

カテゴリー: 米・麦・加工品 > 一般うるち米

玄米

特別栽培

令和3年度、新米です、特別栽培米。農薬は除草剤を1回だけ使用しています。精米の場合1割ほど量が減ります。品種名: コシヒカリ



本年度の事業の大枠

(1) 事業推進に関する検討	事業検討会の実施 3回
(2) 栽培技術力・経営力向上のための取組	有機栽培のコスト分析調査 市場流通の仕組と実際～意見交換会～市場見学会
(3) 安定供給体制構築のための取組	販売戦略に関する意見交換会 オーガニック需要状況調査 聞き取り

主な取り組み 7月～10月

開催日	イベント	内容詳細	講師、委員
7月23日	事業検討会①	事業の位置づけ、今後の動き方 総会の方針など最終確認	役員主体 坂ノ途中小野 流通経済研究所折笠
8月31日	有機農産物流通に関する講習会	市場関係者を対象にして、最新の有機農産物の 流通状況や市場展望などについて实际的な話を聞く。	大治(株) 本多氏
	有機推進意見交換会	生産者、実需者を集めて奈良県周辺の オーガニック農産物流通の実情と今後の展望、 課題などについて意見交換を行う	市場仲卸事業者 生産者、流通事業者
9月28日	生産者目線から見た 市場出荷の課題検討 (価格構造など)	有機農産物を市場で扱ううえでの生産技術面・経営面での 課題について検討 ※イチゴの有機栽培を例にとって経営面での課題、 市場流通を進めるにあたって求められる点など検討	かみむら農園、奈良県食と農の振 興部、市場業務課 ほか
10月7日	デジタル技術利用・意見交換会	NIMARUのシステムについての 仕入のデジタル化	アプリ開発業者、荷受、仲卸事業者、 市場業務課 ほか
10月26日	事業検討会②	専門家を交えて事業の進捗と今後の動き検討	事業検討委員 (小野氏、折笠氏、榊原氏)

有機農産物の市場流通 ～先駆者の話を聞く～

- 大治の事業紹介
- 新型コロナの影響と取り組み
- 有機の取り扱い
- 将来に向けての取り組み



今後の有機野菜の可能性とやるべきこと

物流の整備・拠点市場のハブ化

産地に対する仕入れの窓口集約

消費者が有機を購入できる場と機会を増やす

海外輸出 ジャパンオーガニックのブランド化

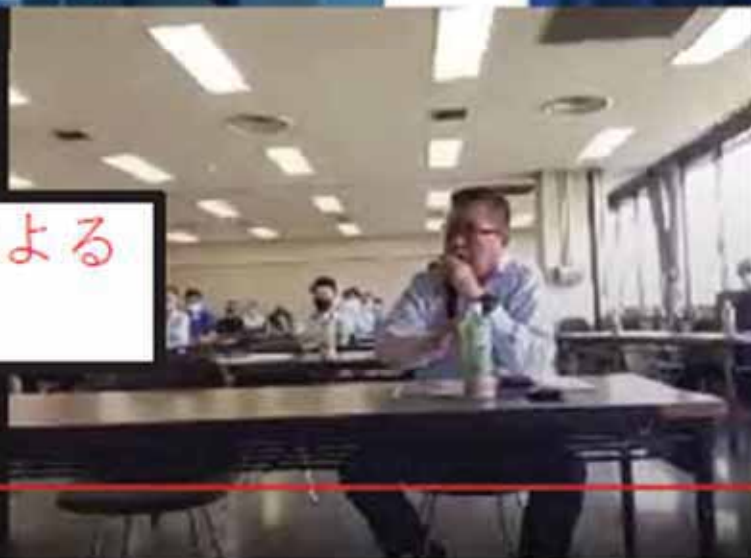




公益財団法人流通経路研究所
主席研究員
折笠 俊輔



流通業界関係者らによる
意見交換の場づくり



一時停止 (x)

40:41 / 56:31



公設市場での有機農産物流通の可能性を考えるフォーラム 第二、三部 トークセッション&質疑応答

※ 密着公開

系統流通におけるDX化の取組事例

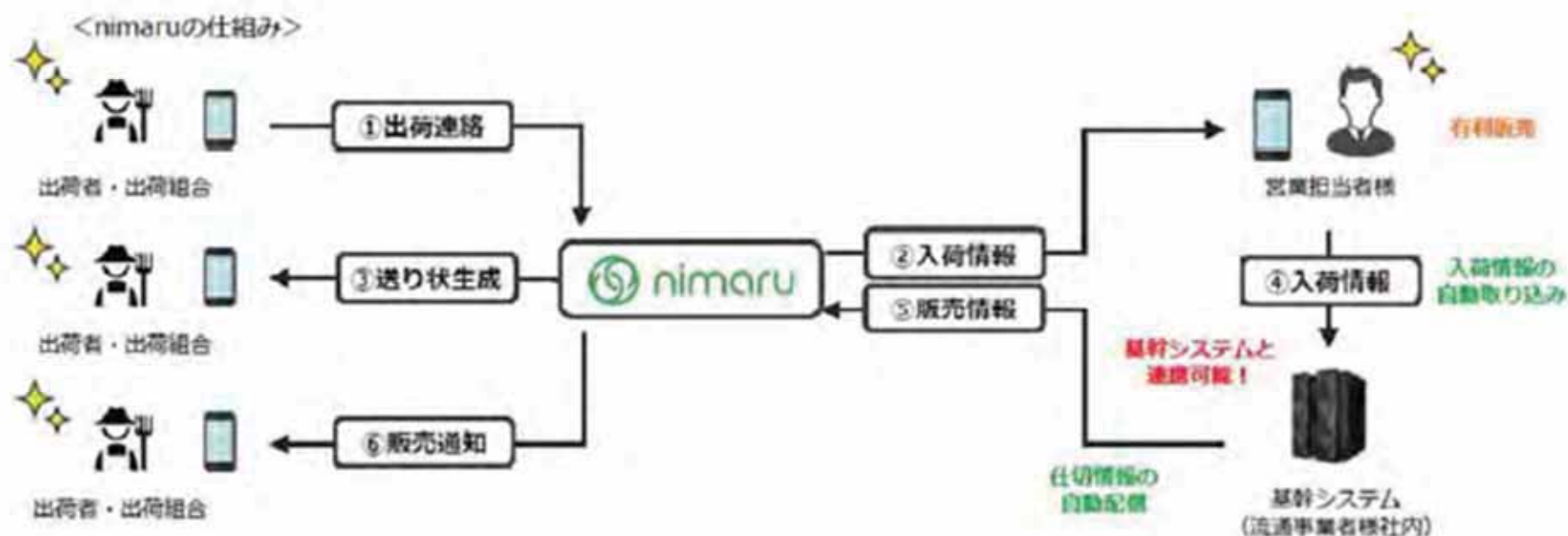


nimaruについて



nimaruは出荷者と流通事業者間のやり取りを電話やFAXを使わずにスマホで行える
「青果流通向けのLINEアプリ」です。

入荷情報や販売価格のやりとりを手軽にデータで完結。流通現場のDXをサポートします。





＜導入事業者数＞

全国 **20** 市場



＜過去6ヶ月間に出荷連絡された総数量＞

294,578 ケース



主な取り組み 11月～2月

12月2日～3日	商談会出展	フードストアソリューションズフェア(FSSF) (インテックス大阪/2日～3日の2日間)	奈良オーガニック、へんこ他
12月16日	方針打ち合わせ等	システム開発など今後の方針打ち合わせ 協議会イベントなど実務レベル打ち合わせ	市場協会、奈良オーガニック、 業務課ほか
1月11日	産地ニーズ聞き取り	管爾の生産者グループとの打ち合わせほか	奈良オーガニックほか
1月20日	商談会出展	奈良・三重の生産者らを対象にした商談会 類農園他が主催(難波御堂筋ホール)	奈良オーガニック、へんこ他
2月8日	事業検討会	専門家を交えて事業の進捗と今後の動き検討	事業検討委員 (小野氏、折笠氏)
1月～3月	有機栽培生産コスト調査	かみむら農園に協力をいただき、イチゴを中心に、有機栽培の生産コスト構造等の課題を整理し、市場導入に向けての具体的な戦略について検討します。	かみむら農園、奈良県食と農の振興部 ほか

周辺実需者のオーガニック
への実地的なニーズ把握



西日本を代表する大手小売企業が副主催(運営委員)を務める注目度の高い展示会!!

主催:  日本食糧新聞社 関西支社 共催: 一般社団法人 離島振興地方創生協会

(副主催: フードストア ソリューションズ フェア運営委員会)



株式会社イズミ



イズミヤ株式会社



株式会社エプリモ・ミイホールディングス



株式会社オークワ



株式会社関西スーパーマーケット



株式会社キヨーエイ



株式会社近商ストア



株式会社コノミヤ



生活協同組合 コープこうべ



株式会社サニーマート



株式会社サンシャインチェーン本部



株式会社トーホーストア



株式会社阪急オアシス



株式会社フジ



株式会社丸久



株式会社マルヨシセンター



株式会社万代



株式会社ライフコーポレーション

※社名50音順

生産原価把握調査～DX基礎インフラ整備など

※ 試算表 (年間推移)

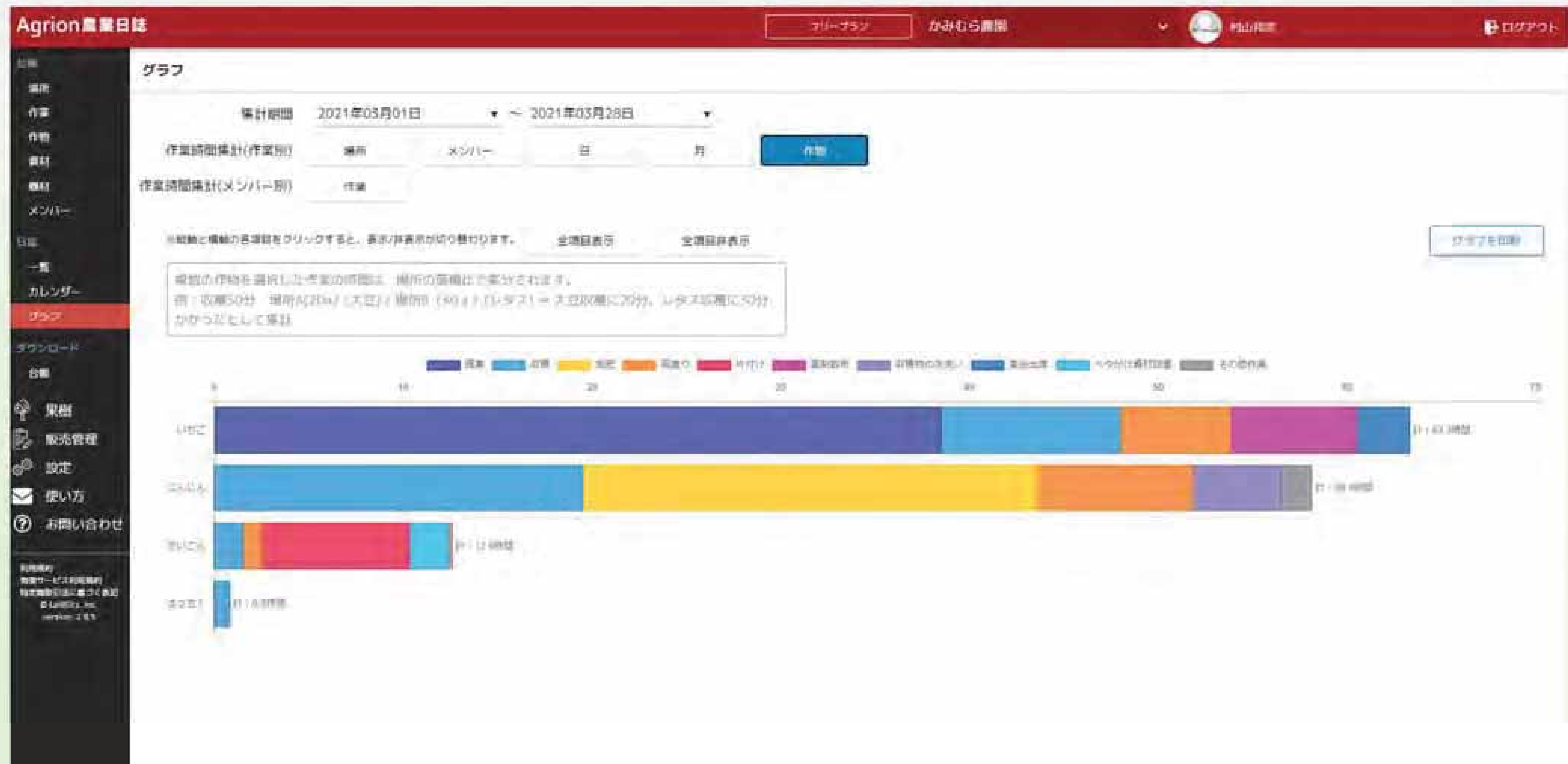
単位: 円

1 勘定科目	1月度	2月度	3月度	4月度	5月度	6月度	上半期合計	7)
【収入金額】								
売上高 (1)	954,553	883,947	935,532	1,106,423	197,749	101,354	4,179,558	
雑収入 (2)	97,000	97,000	704,284	107,000	97,000	97,000	1,199,284	
小計	1,051,553	980,947	1,639,816	1,213,423	294,749	198,354	5,378,842	
収入金額合計	1,051,553	980,947	1,639,816	1,213,423	294,749	198,354	5,378,842	
【費用】								
当期生産原価	268,366	229,488	767,738	506,161	630,699	382,446	2,784,898	
租税公課	0	0	0	0	0	6,400	6,400	
農業共済掛金	0	0	6,050	0	0	0	6,050	
荷造運賃手数料	3,267	4,554	70,752	67,463	87,186	15,191	248,413	
利子割引料	1,954	2,013	4,126	2,034	2,013	1,994	14,144	
旅費交通費	7,420	4,080	4,990	1,460	0	720	18,670	
その他	0	0	0	0	0	0	0	
費用合計	279,746	236,065	848,666	514,654	718,915	399,560	2,787,606	
売上高 (1) (注)								
オクラ	0	0	0	0	0	0	0	
ニンジン	318,411	143,140	240,070	12,200	0	0	713,821	
スーヨーキュウリ	0	0	0	0	0	83,028	83,028	
いちご	368,699	478,545	571,856	996,198	162,489	0	2,577,787	
その他	6,250	4,190	5,000	5,000	5,000	5,000	30,440	
大根	65,292	220,198	25,206	6,500	0	0	317,196	
送料	25,800	23,800	40,500	44,000	10,500	3,000	147,600	
落いも	0	0	0	0	0	0	0	
ほうれん草	0	0	0	0	0	0	0	
消費税相当額	39,598	20,774	26,500	21,725	19,760	7,588	143,945	

生産原価把握調査～DX基礎インフラ整備など



生産原価把握調査～DX基礎インフラ整備など



主な取り組み 1月～3月

1月～3月	実需者聞き取り (個別訪問想定)	商談会でつながった実需者を中心に、卸業者やその得意先など、有機・地場産品に興味がある事業者のニーズを聞く。状況に応じて生産者らにも加わってもらう。	市場仲卸事業者、流通事業者 生産者など
2～3月	奈良消費者アンケート	奈良県内の消費者に対して、オーガニック&ローカル農産物の購入の実際の状況などについてアンケートを実施する。	市場業務課他
2月25日	周辺生産者向け 市場活用セミナー ～意見交換会	奈良市場周辺のオーガニック・ローカル系の生産者に対し、オーガニック推進の取組、市場の仕組や出荷の仕方などについて知ってもらうためのイベントを実施します。 また、市場流通を進めるにあたって求められる、生産技術・経営面における課題検討のため、生産者・流通業者・市場関係者を交えての意見交換会を行います。	市場関係者、周辺地域生産者、オーガニック関係の実需者、 奈良県食と農の振興部ほか
2月26日	市場見学会	生産者らの市場見学 (上記イベントオプション／早朝の稼働時間)	生産者、業務課 他
3月	事業成果報告会	今年度の活動のまとめ	運営関係者、役員他



奈良市場の有機農産物流通への取り組み

奈良県中央卸売市場再整備の基本方針

- 市場機能の効率化・高機能化を図る市場エリアとともに、市場の機能や立地を活かした「食とともに文化・スポーツを楽しむ」華やかで賑わいのある複合拠点を一体的に整備
- 魅力ある「市場ブランド」の創出により、市場で取り扱う生鮮食料品の付加価値を向上し、他市場との差別化や市場としての競争力を強化



再整備イメージ図

【目標】奈良県中央卸売市場の新たな役割

- ①オーガニック野菜（加工品を含む）の流通促進
- ②大和野菜の流通促進



▶ 39:22 / 1:22:01



【奈良市場】オーガニック＆ローカルの流通を考える／市場のしくみを知ろう 第1部 奈良市場の取組紹介

※ 限定公開

視聴履歴・2022/03/01

👍 1 🗨️ 低評価 ➦ 共有 📌 保存 ...



【奈良市場】オーガニック&ローカルの流通を考える／市場のしくみを知ろう 第2部 意見交換会

☞ 限定公開

まとめ 本年度の成果

- 基本戦略の設定
専門家らを変えた将来像づくり～運営チームビルディング
- 市場－オーガニック業界／生産者－流通業者の相互理解
周辺関係者の意見交換～連携の場づくり
- 基礎データの収集
有機栽培の原価構造の分析、周辺消費者への聞き取り～マーケット補足